

数量関係①

第1学年

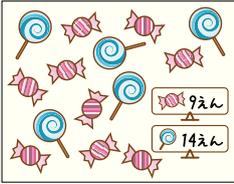
けいさんのかみしばい

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

- 問題文と絵が対応しておらず、正しい作問ができない。
- 正しい図や立式で表すことができない。

問題：えを見て、 $14-9=5$ になるおはなしをつくりましょう。



あめ玉が9個、棒あめが5個だから $9+5$ の式にしよう。

問題文を正しく理解せずに作問をしてしまう。

14円のアメ玉を9個食べたらいいのかな？



「値段」と「個数」の違う数字のものをひき算の対象にしてしまう。

単元の概要

目標

たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくることに興味や関心をもつ。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- 繰り上がりのあるたし算の計算
- 繰り下がりのあるひき算の計算
- たし算やひき算の意味や立式の確認
- 絵や図や言葉の対応を考えた問題作り

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
中学校		関数の意味を理解し、表、式、グラフを相互に関連付けていろいろな情報を読み取ることができない。 ※中学校数学 p.47～54
第6学年	比例を使って	日常生活で、比例の関係を有効に活用していくことができない。
第5学年	小数×小数	図から比例関係をとらえ、式を立てることができない。
第4学年	式と計算のじゅんじょ	計算のきまりをどのように活用して計算の工夫をしたらよいのか思いつかない。
第3学年	わり算を使って	何倍という言葉と図を結び付けて式を立てることができない。
第2学年	かけ算のもんだい作り	式から問題場面を想像できない。場面を正しく式に表せない。
第1学年	けいさんのかみしばい	問題文と絵が対応しておらず、正しい作問ができない。 正しい図や立式で表すことができない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

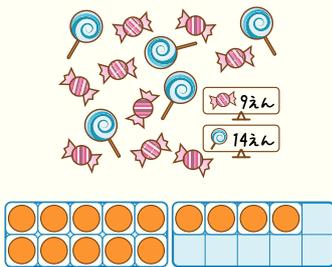
問題場面を半具体物に置き換えて図で説明し直す活動

活動のねらい▶ ・ブロックを活用してひき算の場面がイメージできるようにする。

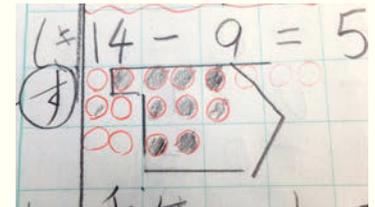
ここがポイント

- 問題場面の絵が入ったワークシートを用意し、絵にブロックを重ねながら、ひき算のイメージができるようにする。
- 「何が何個あるのかな？」と問いかけ、ブロックを『操作』する。
- 「9個食べる」などのセリフを作る『言語化』をして、作問のイメージ作りができるようにする。

期待される児童の姿



あめは全部で14個だから、9個食べることにしよう。



数図ブロックを操作することで、ひき算のイメージと式を結び付けることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

作問したい数字はあめの数なのか、値段なのかを整理し直し、半具体物に置き換えて図で説明し直す活動

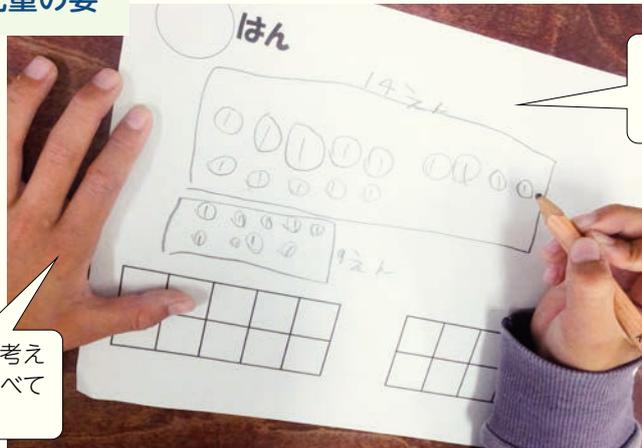
活動のねらい▶ ・お金の絵と数に関連させながら、ひき算の意味について理解を深める。

ここがポイント

- 単位に着目させ、同じ単位どうしのひき算であることに気付かせる。
- 「1円玉が何枚？」と問いかけ、1円玉が14枚と9枚の図をかかせる。
- 図にブロックを重ねることで、半具体物を操作しながら数の違いに気付かせ、紙芝居のセリフにつなげていく。

期待される児童の姿

『14円』をお金で考えて、ブロックを並べてみよう。



あめの値段の違いは、あめ玉と棒付きあめの1つずつだけを見て比べたらいいね。

お金をイメージすることで、「値段」と「個数」の異なる数を比較するのではなく、「値段」の違いだけを考えることができる。